Course number	U-LAS00 20009 LJ34		
Course title (and course title in English)	哲学・文化史Ⅰ History of Philosophy and Culture I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,TODA TAKEFUMI
Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Philosophy(Issues)
Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester
Days and periods	Wed.4	Target year	2nd year students or above	Eligible students	For all majors

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

哲学という学問は、その対象に比較的制限のない学問であり、およそ私たちの身の回りの多くのものがその研究対象となる。むしろ、身近なものにこそ、重要な問題が含まれていると言ってよい。つまり、私たちが持っている既成概念を、そのまま既成のものとしてうけとらず、改めて再検討しつづけることが重要なのである。というのも、思想を始めとして学問の進歩とは、多くの場合、既成概念や慣習化した権威を、無条件に正しいものとして受け取らないことによって行われてきたからである。また、私たちが社会で生きていく上でも、常に自分自身で物事をとらえ直そうとする姿勢は、思考力の向上につながり、より豊かな発想を生み出す源になると考えられる。

　この講義では、私たちの身近な事柄にかんする哲学的な問題をとりあげ、それがどのようなものかを解説し、自らが思考するための第一歩へとつなげることを狙いとする。さらに、伝統的な哲学の問題を後半で取り上げ、哲学史を含めて身に付けることを狙いとする。

哲学I、IIの授業を履修していることが望ましい。

[Course objectives]

前半では、身近なテーマを用いることにより、普段、当然のように考えている概念がいかなるものであるのかを考察することで、常に深く考える思考力を身につける。後半では、哲学の理論的な問題について、一人の哲学者に焦点を当てて考察する。

[Course schedule and contents)]

哲学の身近な実践的な問題と理論的な問題の二つを前半(1-7)回と後半(8-14回）に分けて取り上げる。

前半では、動物の道徳的地位について考える。
後半では、近代の哲学者バークリの哲学を通して、認識論的な問題を考察する。

ただし、場合によって、言語哲学の問題を講義に１、２回取り入れる可能性もある。

Continue to 哲学・文化史Ⅰ(2)↓↓↓

哲学・文化史Ⅰ(2)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

1. 2回の授業中の小テストで判断する。

[Textbooks]

[References, etc.]

（References, etc.）
戸田剛文　他 『今からはじめる哲学入門』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4814001798（授業全体の教科書ではないが、前半の導入などでこの本を用いる。）

[Study outside of class (preparation and review)]

講義に関連のある書籍などを読みつつ、自分なりに問題に対して考えてください。

[Other information (office hours, etc.)]

[Essential courses]